未来につなごう 和白干潟

和白干潟を守る会 20年のあゆみ

1988年～2008年

きりえ「ツルナ 咲く和白干潟」

制作：和白干潟を守る会

20年を超える思い・和白干潟の仲間たち

和白干潟を守る会代表　山本　廣子

「和白干潟を守る会」は1988年4月から活動を始め、20年を過ぎました。20周年を記念して「和白干潟を守る会20年のあゆみ」を作ることになりました。これまでの20年を振り返り、これからの力にしたいと思います。

私は1949年に和白干潟のすぐそばで生まれました。和白干潟は戦後の福岡の人々の命を救った生命の宝庫です。沿岸には松林や広い砂浜があり、浜辺には海の家が並んでいました。春から夏にかけては県内各地から多くの人々がリュックを背負って訪れていました。潮が満ちれば子どもたちは泳ぎ、引けば潮干狩りです。皆アサリやハマグリ・赤貝・マテガイなどたくさんの貝をリュックいっぱいにして持ち帰っていました。エビかきをしてクルマエビも採れました。冬にはイイダコや海苔も食卓にあがりました。私は夏には毎日泳ぎました。私の心も体も和白干潟で作られたと思います。

そんな大好きな和白干潟を埋め立てる計画がありました。私は高校まで福岡で過ごし、25歳で福岡に戻るまで7年間東京で絵の勉強をしました。私が帰福した頃には、和白周辺の山や田畑がどんどん開発されていました。私は和白干潟だけは残してほしいと思いました。そんな折に「日本野鳥の会福岡支部」が企画していた「和白海岸探鳥会」を知り、参加して、ミヤコドリやダイシャクシギなど美しい水鳥たちと出会いました。干潟の生き物たち、塩生植物たち、それらを愛する人々との出会いがありました。

私は1987年に友人の協力を受けながら、和白干潟を埋め立てないでと「和白干潟保全」の請願書を300名の署名をつけて、福岡市議会に提出しました。この時に協力した友人たちと共に1988年に「和白干潟を守る会」を作りました。「香住ヶ丘埋め立てを考える会」や「奈多団地の環境を考える会」「博多湾の自然を守る会」「住民運動連絡センター・福岡」などの多くの方々の協力を受けながら、また「アースデイ」や「ラブアース・クリーンアップ」などの呼びかけにも応えながら、連携を広げました。

「干潟は生命の宝庫です」　山本　廣子

きりえ「和白干潟賛歌」

私がはじめにしたことは「和白干潟」の命名です。保全活動を始めるに当たって守るべきものを明確にしたいと思い、和白（地名）と干潟をつないで「和白干潟」と名づけました。「和白干潟」のパンフレットを作り、全国に広めました。活動を続けられたキーワードは明確さと定例化だろうと思います。和白干潟を守る活動は、仲間と共にクリーン作戦や水質調査、自然観察会、和白干潟まつりなどを企画して、定例化していきました。現在も定例会議で皆で話し合いながら決めていくという活動スタイルを続けています。

和白干潟

「地元の和白からの埋め立て反対の声は影響力があった」と、後に福岡市港湾局の方から聞きました。環境庁長官や福岡県知事の和白干潟保全の意見書も出されて、和白干潟は埋め立てを免れました。代わって和白干潟沖を４０１ｈａも埋め立てる人工島計画ができました。人工島計画反対の活動も、マスコミに大きく取り上げられて、広がっていきました。また私は油絵描きでしたが、出産の時期に「きりえ」と出会い、きりえの絵描きになりました。和白干潟の自然をテーマにしたきりえ作品を発表してきました。私の絵画活動も大きくマスコミに取り上げられて、和白干潟を多くの人に知らせることができました。

温暖化をはじめ、人間の活動が地球環境を悪化させています。世界でも環境を守ることの重要性が言われるようになり、湿地を守る「ラムサール条約」もできて、日本の干潟も少しずつ保全されるようになってきました。「和白干潟を守る会」の活動の目的は、和白干潟をみんなが守るようになることです。和白干潟を地域の宝、福岡の宝、日本の宝として、周りに住んでいる人も日本中の人も、守りたいと思うようになることです。ラムサール条約に登録されることもその一つです。活動の目標に「和白干潟のラムサール条約登録」を掲げてきました。2009年１月には和白干潟が「にほんの里100選」に選ばれました。和白干潟を保全する心が広がっていくよう願っています。

活動の中で多くのすばらしい仲間との出会いや別れがありました。和白干潟を守る会の活動に関わった方々が、その時々の「和白干潟を守る会」を作っていきました。保全活動も絶え間なく流れる水のように、自然に続けていきたいと願っています。すばらしい自然とすばらしい人々に出会えて、私は幸せです。人工島埋め立て工事などで傷ついた和白干潟ですが、和白干潟に足を踏み入れて沖に立つと、心から癒されている自分に気づきます。私たちは自然の子どもなのです。これからも和白干潟のすばらしさを伝え、保全活動を仲間と共に続けていきたいと思っています。

２０年を超えた「和白干潟を守る会」の主な活動を次ページより紹介します。

- **和白干潟の自然観察会と自然観察ガイド講習会**
- **和白干潟のクリーン作戦と自然観察**
- **調査活動**
- **干潟まつり**

和白干潟を守る会会鳥：ミヤコドリ

和白干潟の自然観察会 と 自然観察ガイド講習会

「人工島埋め立て計画」と「和白干潟保全」は、時の話題としてマスコミにも大きく取り上げられていました。和白干潟保全と人工島埋め立て計画について学びたいと、小・中学校やグループなどから、和白干潟の観察会のお世話を依頼されることが多くなりました。

守る会として１９９６年に香港の「マイポ湿地」を視察し、環境教育について学びました。和白干潟を守る会では和白干潟の観察会を「和白干潟の環境教育」と位置づけ、香港マイポ湿地での「WWF 香港」の環境教育を参考にして、１９９７年に「和白干潟の環境教育プログラム」を作りました。また、パンフレット「環境教育シリーズⅠ、Ⅱ」を作成しました。これらを使って和白干潟の大切さを多くの市民や子どもたちに伝えるために、和白干潟の自然観察会を続けてきました。　（山本　廣子）

'98 ミュージカル「海の声」

和白干潟は渡り鳥のルートの中継地として重要なところです。観察会では実際に干潟の生き物たち（水鳥、底生動物、植物）に触れ五感を使って、生命の大切な営みを理解してもらうようにしています。

観察会の案内は５月頃、保育所、幼稚園、小・中学校、高校、大学、公民館や一般のサークルなどへ送ります。観察会の申込みを受けて、実施日の２週間前までに、下見と打合せを行います。その時守る会で作成した「環境教育シリーズⅠ、Ⅱ」と「和白干潟の自然案内」のパンフレットを提供し、和白干潟を収録したビデオや DVD を貸し出します。これらを利用して学校での事前授業が行われると、観察会がスムーズに運ばれます。

子ども達の絵や手紙

１９９７年頃からは参加者も増加してきました。１９９９年度の観察会は最高で２８回、１８５６人の参加がありました。早良区賀茂小学校では、ミュージカル「わすれないで」「海の声」を作りました。子どもたちからは多くの感想文や感想画が寄せられました。観察会後に観察ガイド全員で「和白干潟の自然観察記録」を書き、反省会をしています。参加者には後日「観察会に関するアンケート」を送付してもらって、参考にしています。

観察会をより良くするためには、自然観察ガイドの育成が大切です。１９９７年から始めたガイド講習会も３０回になります。野鳥・干潟の生き物・植物・自然観察会の各専門の講師を招き、受講しました。各回９～４４名の参加者がありました。野鳥では極寒の12月に安西英明氏に、干潟の生き物ではゴカイの研究で有名な佐藤正典氏に、植物では久留米の丹部竹志氏など多くの講師の方々に講習をしていただきました。観察会を楽しくするために「ネイチャーゲーム」「渡り鳥体験ゲーム」などを学習しました。多くの人たちに和白干潟の自然の大切さを、これからも伝え続けていきたいと思います。　（河上　律代）

１９８９年～２００８年　自然観察会参加人数

	回数	子ども	大人	参加人数
保育園	33	859	146	1,005
小学校	80	6,078	265	6,343
中学校	25	1,295	85	1,380
高校	17	673	79	752
大学	15	191	20	211
教職員	5	0	89	89
子どもエコクラブ	8	167	54	221
その他	103	119	1,613	1,732
合計	286	9,382	2,351	11,733

和白干潟の自然観察ガイド（指導員）講習会

期	回	期日	テーマ	講師	所属	参加人数
第１期	1	1997.5.20	観察会指導の心構え、注意	菊屋奈良義	大分県野生生物研究センター代表	23
	2	1997.6.17	和白干潟の自然紹介、観察会の手順	山本廣子	和白干潟を守る会	17
	3	1997.7.29	底生動物の教え方	逸見泰久	筑陽学園教諭	27
	4	1997.8.19	植物の教え方	丹部竹志	久留米野草の会	17
	5	1997.9.30	鳥類の教え方	安西英明	(財)日本野鳥の会ネイチャースクール所長	23
	6	1997.12.2	観察会にネイチャーゲームを取り入れて	生田哲朗	日本ネイチャーゲーム協会福岡県支部	9
第２期	1	1998.5.11	野鳥を見る楽しみを伝えよう	中村聡	油山自然観察の森チーフレンジャー	12
	2	1998.6.23	底生動物たちを知って観察会に役立てよう	高橋徹	海洋生物学者	12
	3	1998.7.07	観察会指導時の心構えと注意	田村耕作	(財)日本自然保護協会自然観察指導員	11
第３期	1	1999.5.18	野鳥を通して自然の大切さを伝えよう	土谷光憲	(財)日本野鳥の会福岡支部長	14
	2	1999.7.27	底生動物たちを知って観察会に役立てよう	菊池泰二	九州大学名誉教授	17
	3	1999.8.17	観察会、はじめの一歩	堀謙治	(財)日本自然保護協会自然観察指導員	14
第４期	1	2000.5.16	自然観察会では何を伝えるのか	足立高行	大分県自然観察連絡協議会代表	17
	2	2000.6.20	雨の日のための室内講義	山本廣子	和白干潟を守る会	13
	3	2000.7.30	干潟のめぐみ～ゴカイ、カニ、カイ	佐藤正典	鹿児島大学理学部生物学教室助教授	22
第５期	1	2001.6.16	観察会を体験してみよう！	守る会会員	和白干潟を守る会自然観察指導員	26
	2	2001.7.05	干潟の生き物を見てみよう	風呂田利夫	東邦大学理学部海洋生物学研究室教授	24
	3	2001.8.30	子どもたちのための観察会	國廣勝	(財)日本自然保護協会自然観察指導員	23
第６期	1	2002.8.18	干潟にはどんな生き物たちがいるのだろう	嶺井久勝	西日本環境ネットワーク理事長	25
	2	2002.9.22	地球を旅する渡り鳥たち（シギ・チドリをテーマに）	大倉寿之	(財)ＷＷＦジャパン自然保護室	28
第７期	1	2003.5.25	干潟のはたらきについて学ぼう	芝原達也	(財)日本野鳥の会サンクチュアリ室レンジャー	44
	2	2003.8.24	干潟の貝はすてき！	山下博由	貝類保全研究会代表	33
第８期	1	2004.8.29	干潟の生き物たちに会おう！	高橋徹	熊本保健科学大学教授	27
	2	2004.10.17	干潟の観察会は楽しいよ！	菊屋奈良義	大分県野生生物研究センター理事長	21
第９期	1	2005.8.28	カニたちの愉快な行動	古賀庸憲	和歌山大学教育学部助教授	24
	2	2005.10.16	和白干潟をつつむ海と陸の探検	清野聡子	東京大学大学院総合文化研究科助手	21
第10期	1	2006.12.17	干潟と鳥と私たち～鳥から学ぶ持続可能な未来	安西英明	(財)日本野鳥の会普及室主任研究員	25
第11期	1	2007.8.26	自然観察会の実践・もう一歩踏み込もう！	堀謙治	(財)日本自然保護協会自然観察指導員	21
第12期	1	2008.8.31	砂の干潟とはどんなところ？	堤裕昭	熊本県立大学環境共生学部教授	25
	2	2008.12.7	海辺のカモをよ～く見よう！	永松愛子	油山自然観察の森チーフレンジャー	15

'07 観察会（干潟のお話）

'00ガイド講習会

'07 観察会（水鳥観察）

ハクセンシオマネキ

'06観察会（まとめ）

ウラギク

'02観察会（干潟の生き物）

クロツラヘラサギ

和白干潟のクリーン作戦と自然観察

「和白干潟のクリーン作戦」は1989年の「第１回　和白干潟まつり」の時に初めて実施しました。翌年1990年４月の「アースデイ日本」の呼びかけに応じ「和白干潟のクリーン作戦」を行いました。この時はNHKがテレビ番組の制作をしていて、雨の中でしたが実況で取材がありました。約４０名の参加でした。その後クリーン作戦は毎月の定例活動になりました。初めのころは私の思いつくままに「クリーン作戦」の看板を立てたり、参加者にお茶やお菓子を準備したりしていましたが、その後担当者を決めて、仕事を分担するようになりました。クリーン作戦のお知らせをマスコミに出す人、当日の干潟のゴミ状況を見てどこを清掃するか決める人、クリーン作戦ののぼりを立てる人、水質調査をする人、お茶やお菓子のお世話をする人、手洗い水を準備する人、記録をつける人、後片付けをする人などです。　（山本　廣子）

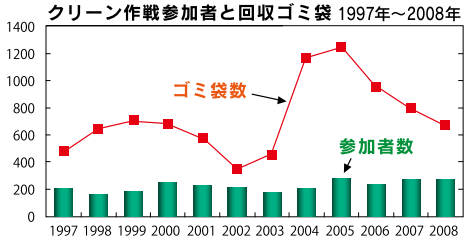
'05 クリーン作戦

2004年8月、初めてクリーン作戦に参加して一番印象に残ったのは、植物に絡まって乾いたアオサを数名の方が一生懸命取り除いていたことでした。それまでは和白干潟のそばに住みながら家から海を眺めるだけでした。

干潟の清掃活動は、毎月定例のクリーン作戦以外に４月には「干潟･湿地を守る日」「春のビーチクリーンアップ」６月頃には「ラブアース・クリーンアップ」９月には「国際ビーチクリーンアップ、ゴミデータ調査」に参加して46種類もゴミを分類します。海が荒れた後や強い雨の後、四季折々の風景と共にゴミにも変化があるのが分かりました。大雨や梅雨時には、沢山のゴミが川から海に流れ込みます。夏の終わりから12月頃まではアオサが大量に発生する事や、その年の気象により変化がある事もわかります。北西の季節風が強いと、海の広場から唐原川左岸までアオサが漂着し、30ｃｍ以上堆積する事もあります。1994年からはアオサの多い時期には福岡市港湾局でも、海陸両方でアオサの除去を行ってくれます。嬉しいことに最近は、新聞やホームページの案内を見た若人や、毎月来てくれる大学生や社会人の参加者もあり、頼もしいかぎりです。綺麗になった干潟やアシ原を見るたびに、充実感を味わっています。清掃後３０分程、参加者の皆さんと水鳥の観察をしたりお茶を飲みながら感想を聞き、その日の参加人数やゴミの量をお知らせして解散します。人数が多い程広範囲に清掃が出来るので、近隣の人々ももう少し興味を持って頂けると嬉しく思います。

和白干潟の現状を一人でも多くの方に見て感じて欲しいと思っています。春にはシギ・チドリが渡り、後背林やアシ原に新芽が出て花々が咲き、とてもさわやかです。夏には干潟にすむ沢山の底生動物の活動が活発になります。秋から冬にはシギ・チドリのほか、たくさんのカモを観察できます。クリーン作戦と合わせて多くの生き物に出会って欲しいと思います。　（田辺　スミ子）

'00 国際ビーチクリーンアップ参加のクリーン作戦



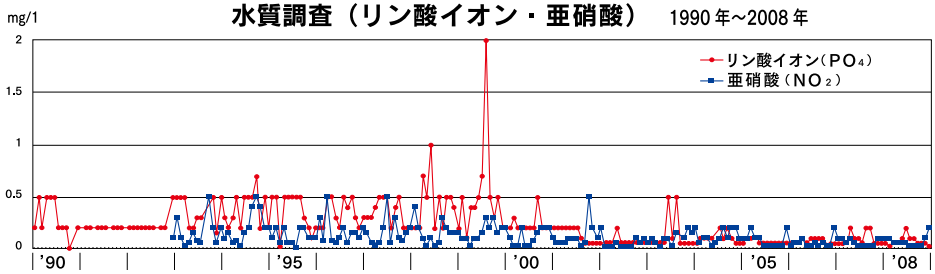
'06 ラブアースクリーンアップ

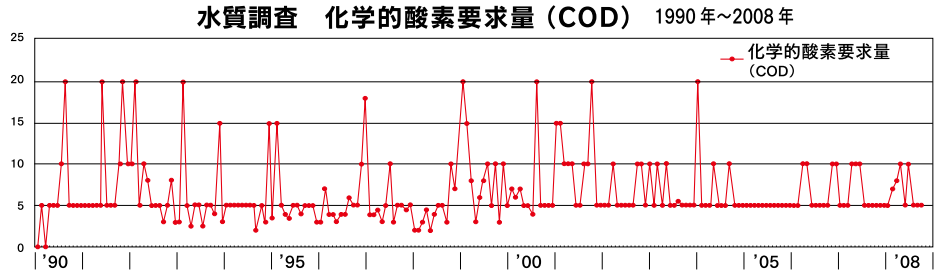
'03 水質調査

調査活動（水質調査）

守る会では、１９９０年以降「和白干潟のクリーン作戦と水質調査」を行ってきました。水質調査の項目は、リン酸イオン（PO_4）、化学的酸素要求量（COD）、亜硝酸（NO_2）、透視度の４項目と、途中からは塩分濃度も加えて実施しています。塩分濃度以外の数値が大きいと水質が悪いことになります。下のグラフは１９９０年４月からの和白干潟の測定結果です。月々の変動はあるものの、いずれの項目も改善傾向にあります。ちなみにリン酸イオン、化学的酸素要求量は夏場に悪化し、亜硝酸は冬場に悪化する傾向にあります。

（山之内　芳晴）

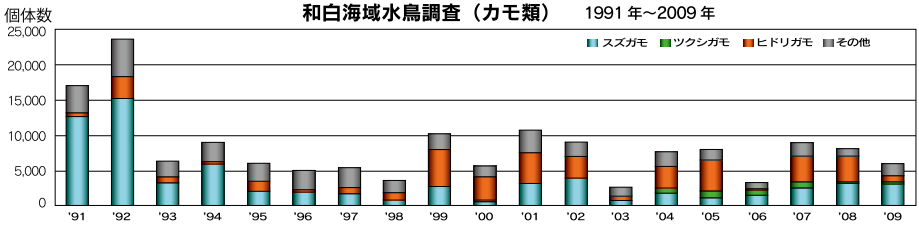


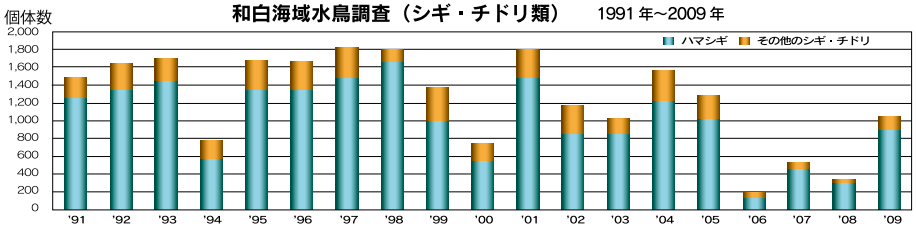


調査活動（鳥類調査）

和白海域水鳥調査（毎年１月に実施）

鳥類調査は、１９９１年に日本野鳥の会福岡支部の水鳥調査（全国一斉ガン・カモ調査）に私個人が協力することで始まりました。以降毎年参加する中で、和白干潟を守る会で協力して取り組むようになりました。和白海域での１月中の１日だけですが、水鳥全種の記録があります。和白海域の水鳥の越冬数は、カモ類は１９９１年頃の約１７０００羽と比べて、近年は２分の１以下に減少、シギ・チドリ類は１９９０年代の約１５００羽と比べて、近年は５分の１程に激減しています。

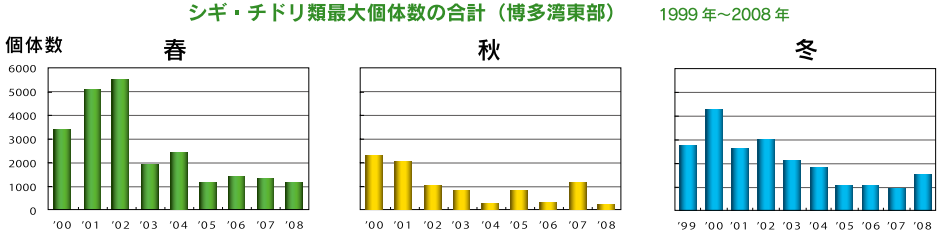




環境省モニタリングサイト１０００シギ・チドリ調査（春期・秋期・冬期）

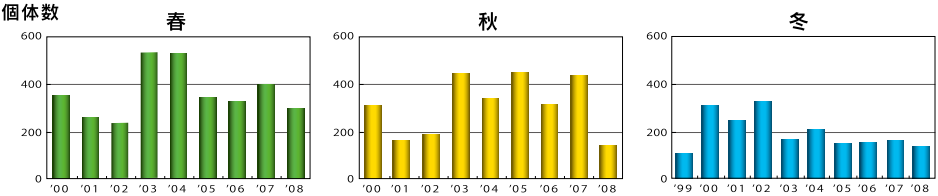
１９９６年に日本湿地ネットワーク（JAWAN）が始めた全国シギ・チドリ調査に、和白干潟を守る会では「博多湾東部」と「今津」の２地域を調査しました。この調査は２０００年からは環境庁・WWFJ・JAWAN の調査になり、２００２年からは「環境省モニタリングサイト１０００」として、春・秋・冬の３期に調査しています。また、２００８年冬期からは、環境省・バードリサーチ・JAWAN の調査になっています。この調査に守る会は続けて参加してきました。（注：２００１年１月に環境庁から環境省へ移行）

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、春期は２００１年頃の約５０００羽から２００８年は約１１００羽に減少し、秋期は２０００年頃の約２２００羽から２００８年は約３５０羽に減少し、冬期は２０００年頃の約４３００羽から２００８年は約１５００羽に減少しました。希少種では、２００８年冬期にクロツラヘラサギは最大４４羽、ツクシガモ２８０羽、ズグロカモメ３羽をカウントしました。



今津のシギ･チドリ類最大数合計は、春期は２００３年頃の約５３０羽以降減少傾向にあり２００８年は約３００羽に減少。秋期は２００３年頃の約４４０羽から、２００８年は約１４０羽に減少。冬期は２００２年の約３２０羽から、２００８年は約１４０羽に減少しました。希少種では、２００８年冬期にクロツラヘラサギは最大35羽、ツクシガモ18羽、ズグロカモメ19羽をカウントしました。

シギ・チドリ類最大個体数の合計（今津）　1999 年～2008 年



調査参加者は毎回10～15名です。また一斉調査以外にも個人で調査を行いました。

（山本　廣子）

ミヤコドリ

春の渡り鳥

カンムリカイツブリ

コアジサシ

ツクシモガモ

'98 鳥類調査

和白干潟まつり

2008年に20回目を迎えた「和白干潟まつり」は、「和白干潟を守る会」設立翌年の12月にスタートしました。多くの人たちと一緒に和白干潟をずっと見守っていきたいという思いで始まり、グリーンコープ生協、野鳥の会ほかたくさんの方々の協力で続けられてきました。多くの人たちに和白干潟に来てもらい、その素晴らしさを知ってもらうとともに、そこでおきている問題について考えてもらう、そして自然環境を守ることの大切さを認識してもらうことが目的です。

「野鳥観察」「干潟の生き物観察」「植物観察」など干潟の特徴を知ることができるまつりの企画は、各講師のお話も楽しく毎年好評で、体験型の「ネイチャーゲーム」は特に子どもたちが楽しんでいます。食べ物やフリーマーケットなどのお店を出して参加する人、コーラスやミニ劇場、マジックなどで出演する人など、皆でつくるまつりになっています。「一言アピール」で自分の思いを伝え、干潟を囲んで和白干潟を守る思いを皆で海へ表現する「手をつないで」もあります。最後には参加者一同で「干潟の掃除」というのも変わっていません。（中嶌　伸子）

2000年に庄山さんと二人で干潟まつり担当になりました。様々な手続きをしながら、無我夢中で取り組みました。生協との第一回実行委員会が台風で開けず、日延べになったことが何回もありました。新聞社や放送局などへ送る後援依頼の申請書を出すのが遅くなり、返事が来るまでの２週間が長く、通信の掲載に気をもむこともありました。和白干潟を守る会の干潟まつり実行委員は８名くらいで、講師依頼や協賛依頼、保健所届け、新聞社への後援依頼など、皆で分担して進めました。

お店の出店者選びで困ったことは、新聞の出店募集を見て申し込んだ業者に主旨が伝わりにくかったことです。現在は出店については、通信と生協での応募チラシで参加してもらっています。出店者同士の交流も、まつりならではのことです。毎回準備を重ねながら、20回もの開催が続いています。（田中　貞子）

'90 第2回干潟まつり「バードウオッチング」

'97 第9回干潟まつり準備

'98 第10回干潟まつり
山下弘文さんを迎えて

'00 第12回干潟まつり「手をつないで」

'05 第17回干潟まつり「コンサート」

和白干潟まつり

回	テーマ　　（副題）	開　催　日	参加数（人）
第 1 回	和白干潟に来ませんか！	1989.12.03	832
第 2 回	和白干潟に来ませんか！	1990.10.21	1,500
第 3 回	和白干潟に来ませんか！　ミヤコドリが今年は13羽も来ていますヨ！	1991.11.24	900
第 4 回	ー和白干潟をみんなの手で包もうー	1992.11.29	1,000
第 5 回	未来に残そう博多湾　いのち輝け和白干潟	1993.11.07	600
第 6 回	和白干潟の自然に親しもう　壊れた自然はもどらない	1994.11.20	1,000
第 7 回	自然とのふれあい和白干潟で遊ぼう！　干潟の自然や地球環境を考える１日にしよう	1995.11.26	800
第 8 回	自然とのふれあい和白干潟で遊ぼう！　干潟の自然や地球環境を考える１日にしよう	1996.11.10	600
第 9 回	自然との共生を求めて！	1997.11.30	650
第10回	自然との共生　カニや鳥と遊ぼう！　ゴールドマン環境保護賞受賞　山下弘文氏を迎えて	1998.11.22	600
第11回	自然と友達になろうー　カニや鳥も仲間	1999.11.21	718
第12回	２１世紀へ残そう！！和白干潟	2000.11.26	600
第13回	★命あふれる博多湾をめざして！　（福岡県２１世紀記念事業）	2001.12.02	500
第14回	★鳥もカニも人も大好き！和白干潟	2002.11.17	600
第15回	★祝！！国指定和白干潟鳥獣保護区	2003.11.23	500
第16回	★ラムサール条約登録をめざして！	2004.11.28	600
第17回	★ラムサール条約登録をめざして★	2005.11.27	400
第18回	★ラムサール条約登録をめざして★	2006.11.19	450
第19回	★ラムサール条約登録をめざして★	2007.11.25	450
第20回	★ラムサール条約登録をめざして★	2008.11.30	400

イベントピックアップ

'96 香港マイポ湿地視察

'02 日中韓環境保全活動（韓国忠清南道）

'05 ラムサール応援企画「和白干潟を歩こう」

'07 本田路津子さんを招いて「ラムサールコンサート」

「ミヤコドリ」の歌もできました

寄稿

和白干潟の保全の必要性を説き、守る会の立ち上げのころや、その後もいろいろとご尽力いただいている方々にご寄稿いただきました。

長年の活動　お疲れ様！

安東　毅

'92 12万署名提出

和白干潟を守る会も昨年で創立２０年目を迎えられ、誠におめでとうございます。和白干潟を守る会の皆さんはこれまで干潟にすむ小動物や飛来する水鳥などの定期的な観察を続けてこられた他に、海水の濁度やＣＯＤなど水質の簡易測定もされ、私も初めの頃はごいっしょさせて頂いたことを今懐かしく思い出します。また、そのように様々な自然保護の活動の他に、皆さん方は和白干潟に根ざす環境教育、とりわけ小中学校など公教育面でも、自然学習など大きな貢献を長年されています。

ところで和白干潟を守る会はこれまでにイオン環境財団から活動助成金を６回受けていますが、その推薦文を書いた私は、その助成が一度も断られなかったのには驚いています。それは恐らくは、そのような環境教育の面での皆さん方の地道な活動が高く評価されたからだと、私は思います。最後に、和白干潟を守る会がその素晴らしい活動をこれからも末永く続けていかれて、博多湾の自然が守られるよう願っています。

いのちのつながり～和白干潟とともに

今村　恵美子

'05 干潟まつり

１９８９年にふくおか東部生協（現グリーンコープ生協福岡東支部）理事長に就任した私は、設立２０周年記念講演会で、「和白干潟を守る会」の山本廣子さんに講演をお願いし、命を育む干潟の大切さと人工島問題を知りました。私は雁の巣の浜辺で貝堀りや砂遊びをさせながら子育てをしていました。この素晴らしい自然を守るために、人工島はなんとしても中止させたいと素朴に考えました。そこで１人でも多くの市民に博多湾の豊かな自然を知ってもらい次代に残そうと、生協に呼びかけて「和白干潟まつり」を守る会と共催し、今日まで引き継がれています。しかし今では沖合いに人工島が居座り、野鳥は減り、干潟の環境も悪化しています。それでも毎年「和白干潟まつり」には仲間が集い、水鳥たちを観て干潟がまだ元気なことを確かめ合うことができます。アッという間の２０年でした。今や私たちの子どもの世代が子連れで「まつり」に参加するようになり、まさに「いのちのつながり」を実感するのです。

底生動物調査と干潟授業

逸見　泰久

'97 講習会

私が和白干潟に通うようになったのは大学に入学した１９７８年、ちょうど「博多湾東部海域全面埋め立て計画」が発表された年でした。そのため干潟の保全に無関心でいることはできず、干潟底生動物調査を数回にわたって行いました。結果は１９９４年にWWFJのレポートに発表しましたが、この調査ではできたばかりの「和白干潟を守る会」の皆さんに大変お世話になりました。１９８９年からは太宰府にある筑陽学園中学高等学校に就職し、授業の一環として和白干潟の環境調査を始めました。この授業では「和白干潟を守る会」の方に大変お世話になっています。特に私が熊本大学に異動してからもこの授業が続いているのは、「和白干潟を守る会」の皆さんのおかげです。現在は、「エコパークゾーン環境保全創造委員会」の委員としても和白干潟に関わっています。和白干潟に通い始めて３０年ですが、これからも多様性豊かな環境が保全されることを願ってやみません。

和白干潟の命のリレー

高橋　徹

'98 講習会

和白干潟を守る会20周年と「にほんの里100選」選定されたことをお慶び申し上げます。もし皆さんの地道な活動がなかったら、ここに至る事はなかったでしょう。それどころか、干潟は跡形も無くなっていたかもしれません。私もホームページの立ち上げや自然観察会に関われた事を嬉しく思います。この20年、清掃や観察会の積み重ねの中で、市民の干潟への認識も確実に広がってきました。もともと自然の懐に抱かれて長い歴史を生きてきた私たち日本人です。しかし経済成長で勘違いを起こした僅かな時期に、日本中の海岸を埋め立てや干拓などの開発で壊してきました。

その中で「和白干潟を守る会」はその名の通り和白干潟を守り抜きました。おかげで和白干潟ではこの瞬間も数えきれない命のリレーが続いています。けれど弱くなった潮流と大都市の負荷で傷ついてもいます。今後ますます和白干潟を守る人たちの力が必要です。地元を離れてしまった私もお手伝いさせていただきたいと思います。

和白干潟を守る会は私の活動の原点

長阿彌（ちょうあみ）　幹生（みきお）

'97 講習会

「和白干潟を守る会」との出会いは、我家の郵便受けに投函されていた「和白干潟通信」でした。手書きの通信からは、干潟の自然を守ろうとする人たちの優しい気持ちが伝わってきました。「探鳥会」に参加したのを機に、守る会の活動に参加しました。当時「きりえ館」はまだ無く、温室改造のアトリエの小屋が守る会の事務所でした。狭い空間に何人もの人たちが肩を寄せ合い、話し合い作業をしました。その合間にお弁当を食べたり、おしゃべりしたりの和気あいあいの雰囲気がとても楽しかったです。

色々なことが思い出されます。通信編集や助成金の獲得、バスハイクのガイド、東京単身赴任中の街頭署名、名古屋藤前干潟の視察、福岡市長（前山崎市長）への直訴など、次々と思い出され、尽きることがありません。守る会の活動は、和白干潟の自然を守る活動であると同時に、人と人が手を繋いで住み良い社会を作っていく活動です。私の様々な活動の原点であり私の生きる力になっています。

すばらしい仲間と自然に魅せられて

田中　浩朗

'02 クリーン作戦

私は、1997年秋から2005年春まで、和白干潟を守る会事務局のメンバー（1999年度以降は事務局長）として活動をさせていただきました。それまで必ずしも自然に関心があるわけではなかった私ですが、守る会に集った仲間と干潟の自然に魅せられて、いろいろな体験をさせていただきました。裁判所で判決を聞いたり、市役所で記者会見をしたり、テレビやラジオの取材を受けたりと、めずらしい経験もありました。しかし、干潟でのクリーン作戦･観察会･まつりや、事務所での定例会議・編集会議・パソコン講習会・望年会など、仲間との普段の活動が今の私には宝石のような思い出となって脳裏に焼き付いています。

地元に密着した地道な活動をベースとし、他団体との協力や社会に対する働きかけを欠かさず、みんなで議論し納得しながら活動を進めることに守る会らしさがあると思います。厳しい現実を前にしても筋を曲げずに20年以上も活動を続けることは並大抵のことではないです。それを可能にする何かが守る会にはあるのだと思います。

'06 クリーン作戦

和白干潟を想う

中野　悠紀子

私は２００３年４月に入会しました。関東から引越して来て、自然観察の催しでもないかと、日本野鳥の会の探鳥会に参加したのがきっかけでした。それから２００７年１２月に福岡から引越すまで、皆様のお仲間にはいり、何の力もないのに事務局長まで仰せつかったのでした。その間印象に残った出来事は沢山ありますが、苦労したけれど達成感のあったのがパンフレット「ラムサール条約と和白干潟」の発行。楽しかった行事は本田路津子さんの「ラムサールコンサート」。悔しくて残念だったのが塩浜の護岸工事の実施でした。市役所は何度も説明会を開いて守る会の意見、要望を聞いてはくれましたが、見解はいつもすれちがいでした。草が生い茂り、キリギリスが鳴いていた護岸上の小道は、広々とした真っすぐな道路になってしまいました。常に山本代表も頭を抱えていたのは資金のことでした。助成金が付いたと決まった時には心からほっとしたものです。和白干潟で一番好きなのは、アシ原からハマシギの群舞をながめることでした。その光景がいつまでも絶える事が無いように心から祈っています。

❤ご寄稿いただいた方々以外にも、多くの方々にご尽力いただきました。
心より感謝申し上げます！

和白干潟を守る会　活動の２０年をふりかえって

長年守る会の活動にかかわっている人に、主に初期の頃を振り返り話を聞きました。
出席者：山本廣子、木元喜代美、中嶌伸子、田中貞子、矢部セツ、山下茂喜、河上律代

Q：会を作るきっかけ、入会のきっかけは何でしょうか？

山本　１９８０年頃の福岡市は中央区、西区さらに東区へと埋め立て計画を進めていました。和白に埋め立て計画があることを知り、これまで私を育んでくれた海の大切さを感じ、守りたいと思い、１９８７年に和白干潟保全の請願書を市議会に提出しました。１９８８年に署名を集めてくれた人たちに呼びかけて「和白干潟を守る会」を発足させました。

木元　私は１９８７年の春に北九州から香住ヶ丘に引っ越し、家の２階から干潟を眺めたり散歩をしていました。山本さん主催の「手づくりの会」で山本さんと知り合い、埋め立て計画も知りました。私も大阪で幼い頃海水浴に行っていた海が埋め立てられて、遠くの海に行くようになったことを思い出し、この貴重な干潟を残したいと学習会に参加し、会員になりました。

山下　今から約１５年ほど前に定年退職して日本野鳥の会に入会しました。その頃名島海岸はゴミなどで非常に汚れていました。海岸のゴミ拾いをしようと思っていた矢先、和白海岸の探鳥会を知り、そこで守る会の存在を知りました。写真は昔からの趣味でしたが、守る会に入って野鳥を撮るようになりました。

中嶌　生協活動の中で人工島建設問題について学習し、また和白干潟に関する山本さんの講演を聞き、身近にある自然環境に関心を持ちました。そしてＰＴＡ活動で野鳥観察会を企画したことをきっかけに、さらに山本さんの和白干潟への深い思いに触れ、その後会の活動に直接関わるようになりました。

河上　和白干潟を案内して頂いた時、渡り鳥の羽の美しさと種類の多さに感動しました。和白干潟で探鳥をしている時に掃除をしている守る会の人に出会い、渡り鳥がずっと訪れてほしいと思い入会しました。

矢部　いつも姉から背中を押されていた様に思います。自然や動植物をこよなく愛した姉は、博多湾の沿岸が開発され、昔の面影をとどめる唯一の湾奥の干潟が埋め立てられる問題に心を痛めていました。当時山本さんが署名活動などされているのを新聞で知りました。東区に引越し、野鳥の会会員の姉の勧めで探鳥会に参加し、和白干潟を守る会に入会しました。自然保護団体との交流のバスツアーに参加したり、定例会議やクリーン作戦にも参加するようになりました。１993年春の事です。

田中貞　家の庭に来る鳥の名前を知りたくて１986年に日本野鳥の会に入りました。野鳥が好きでくわしい友達も出来ました。その縁もあって山本さんの「手づくりの会」に参加して、いろいろな事を習いました。牛乳パックの紙すきに始まり、きりえ・木彫・絵本づくり・和紙染め・七宝焼きと色々なものを教わりました。自然から図柄を学び手仕事の楽しさを味わいながら、設立間もない頃の和白干潟を守る会に入会しました。

Q：印象に残ったことや苦労したことは何でしょうか？

主な担当

山本　手書きの「和白干潟通信　愛して、わじろ」を発行することにして、公民館の印刷機を借りて刷りました。それを会員が分担して、香住ヶ丘・唐原・和白・奈多団地などに配布しました。安東毅先生をお呼びして博多湾の水質の学習会を企画しました。観察会や「干潟まつり」なども手探りで開催しました。周辺では埋め立て推進派の勢力が強かったし、私の家の前の土手で不審火が起きたり、嫌がらせがあったりしました。それでも多くの人の応援があり、１990年頃から国内外の団体との連携が進み、運動が急速に大きくなっていったように思います。
また遠く韓国や香港の干潟の調査や交流にも行きました。

代　表

木元　１996年にアースデイ市民国会参加のために荒木龍昇（博多湾会議）さんと山本さんと私の３人で、東京へ行き、環境庁長官岩垂寿喜男氏、議員の楢崎弥之助氏、三重野栄子氏、土井たか子氏、堂本暁子氏にお会いして訴えました。勇気を奮って東市民センターでの意見発表会に出たことや、作家の立松和平さんの講演会で守る会のパンフレットを渡して説明したこと、「週刊金曜日」主催の「あえて博多で環境を語るシンポウジウム」（96年）、諫早シンポのデモ行進（97年）、名古屋の「藤前干潟シンポジウム」（98年）等々、よく行ったなあと思います。人工島裁判を傍聴しに行ったり、守る会の仲間との出会いもあったり、貴重な体験でした。

'96 アースデイ市民国会

干潟まつりなど

山下　守る会では2000年に環境庁からの依頼で博多湾鳥類調査を１年間実施することになり、私も参加しました。小学校の観察会が盛んになり、事前の下見や観察会がとても印象深いです。子どもたちとのふれあいが楽しかったです。守る会の調査や観察会を通して大変勉強になりました。　調査など

河上　和白干潟の渡り鳥たちを通して、多くの人との出会いを持てたことが私の宝です。苦労と言えば、私は何回もガイド講習会に参加していますが、なかなかガイドは大変なことです。これからも和白干潟の保全活動を続けて多くの子供達に、和白干潟の素晴らしさを知ってもらいたいと思います。　観察会など

中嶌　和白干潟の保全活動をしている人たちは常に勉強、学習をおこたらないということに感心しました。専門家の人が和白干潟の砂の中の小さな生物とそれを食べる鳥の名前を挙げられた時に、自然のつながりを実感し感動しました。山本さんの思いとそれに共感し、会の活動を支えてきた人たちが常にいた２０年だったと思います。　干潟まつりなど

矢部　守る会の活動は和気あいあいとしていて苦労したと思った事はなく、みな楽しい思い出です。以前は干潟の中に、自転車や車のタイヤが多く埋もれていて、皆と協力して引き上げるとフジツボがビッシリ。タイヤの中の黒い土を出すのに一苦労でしたが、干潟を綺麗に出来た満足感で一杯でした。裁判所通いや街頭署名活動やアオサ清掃が印象深いことです。海外から和白干潟を見学に来られた方に、通訳が「お掃除をしております」と言って下さると、海外の方が私の手がスッポリ入るような大きな暖かい手で「頑張ってください」と握り締めて頂き嬉しかったです。裁判所での傍聴も貴重な体験でした。　クリーン作戦など

田中貞　厳格を要する署名活動では大変さや負担もありましたが、当時は西原さん達の熱い思いに引っ張られて頑張ることができました。今もって守る会を続けているのは、その時その時を皆一生懸命にやっている姿を見ているからでしょうか。一主婦である私が、活動を通して地域に対し目を向ける範囲が広くなりました。植物が大好きで姿や名前に愛着が増しています。自然観察などを通して多くのことを勉強し、伝えていきたいと思っています。　干潟まつりなど

’09 木元、山下

’09 中嶌、山本、河上、田中貞、矢部

’98 通信発送会

和白干潟を守る会　年表

年表の色分け　赤:活動の初回　青:表彰　黄色:出版物　緑:社会の動き

年(西暦)

1959　博多港港湾計画（昭和34年）で博多湾を半分以上埋立てる計画あり（福岡市）

1978　博多港港湾計画で和白干潟を含む博多湾東部海域全面埋め立て計画発表（福岡市）

1987　和白干潟保全の請願書を300人の署名をつけて福岡市議会に提出（山本廣子）

1988　山本廣子の呼びかけにより「和白干潟を守る会」を結成・「和白干潟を考えよう」「人工島計画、どうなる博多湾」「人工島の必要性や問題点」などの学習会開催・「和白干潟通信第１号」発行
香椎パークポート埋め立て工事開始・福岡市が和白干潟の埋立て中止を決定

1989　「和白干潟にくる渡り鳥を観る集い」開催・人工島計画中止を環境庁に陳情・博多港地方港湾審議会に人工島中止の8,000名の署名を提出・「和白干潟の自然を守り、市民の憩いの場とするための提案」を福岡市長に提出・第１回「和白干潟まつり」開催・「海と環境のアンケート」調査実施
国の港湾審議会で博多港港湾計画を改定し東部埋め立てを陸続きから人工島方式へ・国際水禽湿地調査局（IWRB.J）が「日本湿地目録」を刊行し、和白・今津（博多湾）が特に重要な湿地24にリストアップ・福岡市「博多港新港湾計画」策定

1990　アースデイ参加「和白干潟クリーン作戦」実施・「アースデイ」「ラブアースクリーンアップ」「国際ビーチクリーンアップ」「干潟を守る日」に毎年参加・「海と環境のアンケート」結果と人工島再検討の要望書を市長に提出・「人工島計画再検討と博多湾の環境保全について」の要望書を福岡市長に提出・第２回「和白干潟まつり」でのアピール文と署名928名分を市長に提出

1991　日本野鳥の会の和白海域水鳥調査に参加・市長、県知事、環境庁長官に和白干潟の鳥獣保護区特別保護区指定の要望書を提出・ニール・モアズ氏提案の「バードソン in 博多湾」を共催・パンフレット「和白干潟自然案内」発行・野鳥や底生動物や植物の観察会開催・JAWAN（日本湿地ネットワーク）の結成に協力・和白干潟の生物観察会開催・「博多湾の豊かな自然を未来に伝える署名の会」を結成して署名活動展開（92年に博多湾市民の会に移行）
「人工島計画」を公表（福岡市）

1992　「人工島埋立て計画を見直し博多湾の豊かな自然を未来に伝える請願」約12万名の署名を市議会、県議会、国会に提出・JAWAN 主催「国際湿地シンポジウム in 博多湾」に参加・人工島見直しを環境庁や運輸省に陳情（博多湾市民の会）・「ラムサールのつどい in 博多湾」の開催（博多湾市民の会）
福岡市主催「人工島建設市民意見発表会」で約半数が人工島反対・「ローマクラブ福岡会議イン九州」で脇、佐々木両氏が人工島問題で発言・地球環境サミット開催（ブラジル）・福岡市「人工島計画の環境影響評価準備書」の縦覧開始

1993　「国際湿地シンポジウム in 博多湾」の開催に協力・和白干潟の底生動物調査実施・「ラムサール・ウオーク」「ラムサール・トーク」（野田知祐氏講演）開催（博多湾市民の会）・日本野鳥の会黒田長久会長が和白干潟視察、市に人工島見直し申し入れ
県知事が「人工島計画」のアセス意見書で野鳥保護や水質汚濁で福岡市に厳しい

注文・福岡市議会「人工島計画」可決→運輸大臣に埋め立て認可申請・ラムサール条約第５回締約国会議（釧路）、国内指定８箇所に

1994 筑紫哲也氏和白干潟を訪問･JAWAN 主催の「ズグロカモメシンポジウム」に協力・人工島中止とラムサール条約登録の署名活動（博多湾市民の会）・人工島工事の公金支出差し止めの住民監査請求提出、棄却、福岡地裁に提訴（博多湾市民の会）

環境庁長官が人工島アセスの意見書で福岡市に厳しい注文・人工島埋立て工事着工

1995 福岡市主催の「エコパークゾーンを考える懇談会」に参加しレポートを提出・写真集「和白干潟の四季」出版（地球環境基金）・「人工島工事の中止とラムサール条約登録」の署名88,112名を市議会に提出

1996 香港マイポ湿地を視察し環境教育について学ぶ・「アースデイ市民国会１９９６」で和白干潟保全を全国にアピール･JAWAN 主催「シギ･チドリ調査」開始に協力･「和白干潟を守る会」のホームページ開設（高橋徹氏）・佐賀県「シチメンソウを守る会」「ファーブルの森を守る会」を視察し交流

ラムサール条約第６回締約国会議（オーストラリア）、国内指定１０箇所に

1997 山口県熊毛町八代のツル渡来地を視察し交流・早良区賀茂小学校で和白干潟のミュージカル「わすれないで」を観劇・事務所きりえ館に移転・守る会独自の「環境教育プログラム」による自然観察会を開始・パンフレット「環境教育シリーズⅠ、Ⅱ」発行・第１回自然観察指導員講習会を開催・以降毎年開催・「日本干潟サミット」に参加・都市計画道路「海の中道海浜公園線」の問題浮上　諫早湾の閉め切りが決行される

パンフレットや写真集

1998 第１０回「和白干潟まつり」開催

人工島事業への公金差し止め訴訟の地裁判決・公金支出は合法、環境影響評価はずさんと批判

「海とのふれあい賞」受賞

1999 「和白干潟通信５０号」発行・志摩町の「泉川はまぼうの会」と交流会と自然観察会　・朝日新聞社主催第２回「海とのふれあい賞」準賞受賞・パンフレット「和白干潟を守る会」発行・JAWAN「‘９９国際湿地シンポジウム in 和白干潟」協力

ラムサール条約第７回締約国会議（コスタリカ）、国内指定１１箇所に

2000 イオングループ環境財団設立１０周年記念式典で特別表彰を受ける・環境庁の博多湾鳥類調査に協力・福岡市環境美化功労者表彰式で表彰を受ける

2001 日中韓環境保全活動の交流で韓国忠清南道の干潟を訪問し保全活動に協力・干潟のモニタリング調査で底生動物を調査･ＫＢＣ「水とみどりの大賞」特別賞を受賞･シンポジウム「命あふれる博多湾をめざして～国設鳥獣保護区を考える」を開催・和白干潟の英文パンフレット２種発行

2002 人工島ストップ署名活動に参加・「日中韓の沿岸生態系保全活動ワークショップ」に参加し韓国のＮＧＯと交流（２/２～２/６）・日中韓環境保全活動のシンポジウムに参加し白沙場干潟を視察（12/21～23）

ラムサール条約第８回締約国会議（スペイン）、国内指定１３箇所に

2003 「博多湾・和白干潟保全のための提案」を福岡市へ提出・JAWAN 主催「国際湿地シンポジウム」を福岡市で開催・人工島ストップ署名１３,752名を福岡市長に提出・日韓合同授業研究会第９回交流会の和白干潟観察会を開催

和白干潟が国指定鳥獣保護区となる

2004 国指定鳥獣保護区指定記念写真絵はがき「みんなの和白干潟」発行・和白海域潮流調査を２回実施

和白干潟が環境省のラムサール条約登録湿地の候補地に選ばれる

2005 和白海域潮流調査実施・パンフレット「ラムサール条約と和白干潟」発行・ラムサール応援企画「和白干潟を歩こう」開催

ラムサール条約第９回締約国会議（ウガンダ）、国内指定３３箇所に

2006 ラムサール応援企画の観察会を２回開催・「和白干潟の重機による耕転の中止を求める要望書」「人工島野鳥公園基本構想の人工干潟造成計画の撤回を求める要望書」を福岡市長に提出・国土交通省から「海の日功労者表彰」を受けた・「和白干潟保全のつどい」に参加

2007 「環境教育シリーズⅡ」の水鳥の名前の韓国語版を作成・「博多湾・和白干潟保全のための提案」を福岡市長に提出・ラムサールコンサート曲「ミヤコドリ」完成・市長と懇談「聞きたかけん」で市長と懇談・ハマボウを見る会とハマゴウを見る会開催・黒田長久さんの和白干潟の絵を黒田奨学会から受領・本田路津子さんを招き「ラムサールコンサート」を開催・第１回福岡市環境行動賞の最優秀賞を受賞・エコパークゾーン等水域利用検討委員会に参加・環境大臣に和白干潟のラムサール登録湿地についての要望書を提出・ラムサール条約登録地藺牟田池視察（和白干潟保全のつどい）

2008 イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録・20周年記念「きりえでつくろう和白干潟」開催・第20回「和白干潟まつり」開催・20周年記念「和白干潟通信85号」カラー印刷・干潟保全アサリ看板の設置（和白干潟保全のつどい）

ラムサール条約第１０回締約国会議（韓国）、国内指定３７箇所 に

ラムサール条約 NGO 会議に守る会はパネル参加

2009 「朝日新聞社」「森林文化協会」から和白干潟が「にほんの里１００選」に選ばれる（1/6）

きりえ「新芽」

ご支援に感謝いたします!!

◆助成金をいただきました

- 地球環境基金（1995、1997 年）
- イオン環境財団（1997～1999年、2002年～2004年）
- 世界自然保護基金ジャパン（1999～2002年）
- 全労済（2000、2001年）
- パタゴニア環境助成金（1998、2001、2009年）
- 福岡市「エコ発する事業補助金」（2006～2008年）

◆大口のカンパをいただきました

- 「富士ゼロックス」と「端数クラブ」（2000～2004年）
- 「三井海上火災保険」と「ハートクラブ」（2000 年）

◆長年にわたり、沢山の方にカンパをいただきました

＜編集後記＞

片岡佐代子：20 年の歴史に立ち会え、活動の志を学べました。
木元喜代美：通信 20 年分を再読し、懐かしく嬉しく思いました。
田辺スミ子：守る会 20 年の歴史と長年の苦労がよくわかりました。
西　睦　夫：2004年夏「クリーン作戦」から参加。編集に関われ幸せでした。
平 山 義 之：20年の重みと、携わった人達の不屈の思いを肌に感じ取りました。
山之内芳晴：過去の記録から先人達の苦労がよくわかりました。
山 本 廣 子：和白干潟を守る会の 20 年誌が出来て、本当によかった！感謝！

ハママツナ

きりえ「夕映えの和白干潟」

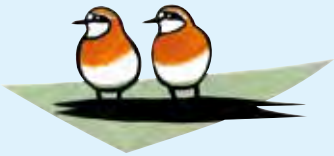
未来につなごう 和白干潟

和白干潟を守る会 20年のあゆみ

1988年～2008年

- ●20年を超える思い
- ●和白干潟の自然観察会と自然観察ガイド講習会
- ●和白干潟のクリーン作戦と自然観察
- ●調査活動
- ●干潟まつり
- ●寄稿
- ●20年をふりかえって
- ●和白干潟を守る会年表

写真　和白干潟を守る会資料より
カット　くすだ　ひろこ



きりえ「メダイチドリ」

発行日　2009年7月5日　　改訂　2013年6月15日
発行者　和白干潟を守る会
代表者　山本　廣子
〒811-0202　福岡市東区和白 1-14-37
TEL/FAX　092-606-0012
http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/

和白干潟を守る会
会員数約350名と7団体

印　刷　ロータリー印刷株式会社

★この冊子は一部パタゴニア環境助成金を受けて作成しました。